令和６年度　国立吉備青少年自然の家

事業のまとめ

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立吉備青少年自然の家

はじめに

人工知能（AI）やIoT（Internet of Things）の発達による、急速な社会情勢の変化は、私たちに様々な恩恵をもたらす一方で、子どもたちの体験の機会が減少していることが指摘されており、その経験不足がいじめや暴力行為、凶悪犯罪の増加や低年齢化などの要因として考えられています。一方、コロナ禍以降の流れとして、学校での宿泊学習活動の縮小や中止等に伴い、私たち青少年教育施設を取り巻く状況も、一層厳しさを増しております。

このような状況下ではありますが、「体験活動を通した豊かな心の育成」を目指し、今年度は10本の教育事業を実施いたしました。

新規の事業といたしましては、アウトドアスポーツを通じて自然の循環を体感する環境スポーツイベント「SEA TO SUMMIT for Children in KIBI」を株式会社モンベルをはじめ、多くの機関と連携して行いました。

また、国際交流事業「ミクロネシア諸島自然体験交流事業」として、マーシャル諸島共和国とミクロネシア連邦チューク州の子供たち 35 名が、岡山県内の子供たちと交流いたしました。その他、高校生を対象とした「地域探求プログラム」や、ひとり親家庭の親子を対象とした「わくわくキャンプ@吉備」、高校生や大学生等を対象とした「ボランティア養成研修」、家族を対象とした「チアフルデー」など、多様な対象に体験活動の面白さや学びを届ける取り組みを行いました。

私たち吉備青少年自然の家は、今後も「すべての子どもたちに上質な体験活動を届ける」べく、様々な事業を企画実施してまいりたいと思います。つきましては、本報告書をご一読いただき、改善等のご意見がございましたら是非ご教示いただけますと幸いです。

令和７年３月

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立吉備青少年自然の家
所 長　片 山 貞 実

令和６年度国立吉備青少年自然の家事業のまとめ

はじめに			Ｐ１
目次			Ｐ２
１．次代を担う青少年の自立に向けた健全育成に関する事業			
青少年教育に関するモデル的事業	①全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 吉備	県内の高校生	Ｐ３
	②全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」地方ステージ（中国ブロック）	地域探究プログラムオリエンテーション合宿を修了し、実践活動を行い報告書を提出した中国ブロックの高校生	Ｐ７
	③SEA TO SUMMIT for Children in KIBI	小学校５・６年生 中学１年生	Ｐ１１
社会の要請に応える体験活動等事業	④早寝早起き朝ごはんキャラバン隊	小学生	Ｐ１５
	⑤自己肯定感アップキャンプ	小学校３・４年生	Ｐ１７
	⑥チアフルデー　～きびの森！感謝でぇ～	家族	Ｐ２１
課題を抱える青少年を支援する体験活動事業	⑦わくわくキャンプ@吉備	ひとり親家庭	Ｐ２７
グローバル人材の育成を見据えた国際交流事業	⑧ミクロネシア諸島自然体験交流事業	ミクロネシア諸島参加者 ホストファミリー参加者	Ｐ３１
２．青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業			
青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業			
ボランティア養成・研修事業	⑨吉備ボランティア養成研修	高校生･大学生・社会人	Ｐ３５
	⑩ボランティア自主企画	小学校３・４年生	Ｐ３９

令和6年度　全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム　オリエンテーション合宿 in 吉備」

１. 事業の目的（趣旨・ねらい）

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付け、地域での実践活動における素地を培う。

２. 事業の概要

（1）期日

第１回　令和６年８月９日（金）～８月１１日（土）１泊２日
第２回　令和６年８月１６日（金）日帰り

（2）参加者

①　募集対象・人数
全日程に参加できる県内の高校生（募集定員１０名程度）

②　参加者
第１回　４人
第２回　４人

（3）連携機関

吉備中央町地域おこし協力隊　須山　賢人　氏
加茂川有害獣利用促進協議会　二枝　茂広　氏
加茂川有害獣利用促進協議会　椎木　真弓実　氏

（4）企画・運営のポイント

①前年度の反省を生かし、移動時間を最小限にして疲労の軽減と体験の充実をねらった。

②地域おこし協力隊の講師には、地域おこしにおける努力と関連付けて広報におけるアウトプットの工夫について講義をしていただいた。

③加茂川有害獣利用促進協議会のフィールドワークでは、有害獣という地域の課題をプラスにするというコンセプトのもと、ジビエ肉バーベキュー、講話、クラフトとつながりを大切にしたプログラムにした。

④　宿泊を伴う際の発表は、ポスターセッションに限定したが、日帰りの発表は参加者の実態に合わせてパソコンやタブレット端末も使える環境を整えた。

⑤　社会教育実習中の大学生とともに参加することで、学びに向かう姿勢や発表のスキルなど、様々な面で手本になることを期待した。

３. 活動の内容等

（1）日程

①令和６年８月９日（金）～１０日（土）１泊２日

②令和６年８月１６日（金）日帰り　会場：ピュアリティまきび（岡山市）

８月９日（金）		８月１０日（土）		８月１６日（金）	
9:15	受付	6:30	起床・洗面	9:30	受付
9:30	開講式	7:30	朝食	9:45	諸連絡
9:45	アイスブレイク	8:30	移動	10:00	講義・演習④「行動計画の基礎」
10:15	ガイダンス	9:00	フィールドワーク②	12:00	昼食（参加者持参）
11:00	講話		「地域課題の探究」	13:00	発表②
	「地域づくりの実践」	10:00	移動	14:00	実践活動のための
12:00	移動	10:30	講義・演習③「地域課題の探究」		ガイダンス
12:30	昼食（ジビエ肉バーベキュー）	12:00	昼食（レストラン）	15:00	閉講式
13:30	フィールドワーク①	13:30	発表①	15:15	解散
	「地域の魅力を発見」	14:30	諸連絡		
15:30	移動	14:45	解散		
16:00	講義・演習①「地域理解」				
18:00	夕食				
19:00	講義・演習②「課題解決の基礎」				
20:00	入浴				
21:00	就寝準備				
22:00	就寝				

（2）活動の状況

①令和６年８月９日（金）～８月１０日（土）

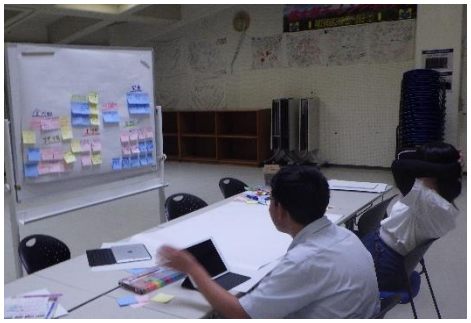
【アイスブレイク】

【講義「地域おこしの様々な活動」】

【講義「地域おこしの様々な活動」】

【フィールドワーク①】

【講義・演習①「地域理解」】



【講義・演習②「課題解決の基礎」】

【フィールドワーク②】

【講義・演習③「地域課題の探究」】

②令和６年８月１６日（金）

【講義・演習④「行動計画の基礎」】

【発表】

４. 成果・課題

（1）満足度

満足：１００％

（2）参加者の声

① 発表資料を作成するうえで、とても参考になる講義だった。

② 自分が知らない有害獣について知ることができ、興味深くて面白かった。また、そういった有害獣を有効活用しようと、捨てる部分を少なくなるような工夫をし、見方を変えマイナス面をプラスにとらえる視点が素晴らしかった。

③ 様々な肉を利用したバーベキューを体験し、駆除したらそのまま処分されることが多かったのが、食に利用されているというＳＤＧｓに沿っているところがとても良い取組だと感じた。

④ 吉備中央町を学ぶことをきっかけに自分の住む町について改めて知ることができ、良いところや課題などを様々な視点で考えることができた。

（3）成果

①地域おこし協力隊による講義では、講師が作成したチラシを使って地域の魅力の伝え方を学んだ。また、ＳＮＳやＸ（旧 Twitter）などの効果や懸念事項を考え、情報の受け手の立場にもなることで、プレゼンテーションスキルの向上につながった。

② 加茂川有害獣利用促進協議会の講師によるフィールドワークでは、課題を解決して有効に活用するプログラムを体験した。地域の課題として考えられていた有害獣を「山のめぐみ」としてとらえ、イノシシ、シカ、アナグマやヌートリアなどのジビエ肉をバーベキューで食べたり、２日目のクラフトでイノシシ革の小銭入れを作ったりした。非常に充実した体験をすることができ、課題も見方を変えるとプラスにすることができると実感することができていた。

③ 参加者の高校生は社会教育実習中の大学生から様々なことを学ぶことができた。教職志望の大学生の話し方や目線、身振り手振りといった相手を意識したプレゼンテーションのスキルは参加者にとって大変参考になった。

④ 参加者が学校教育において一人一台のパソコンを活用してきた世代であることもあり、最終日の発表が全員パソコンやタブレットＰＣでの発表であった。図やグラフを用いて根拠を示し、説得力のある質の高い発表であった。学校でどのような教育を受けてきたかという情報と関連付けて事業を考えることが有効であると感じた。

（4）今後の課題

毎年のことではあるが、参加者の確保には今年も苦労した。チラシを配るだけでは配布の開始時期を早めたり配布先を広げたりしても効果は薄いと感じた。事業の魅力や参加することの良さを伝えて参加者を増やしていきたい。

担当：企画指導専門職　八木　雄治

令和6年度　全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム地方ステージ（中国ブロック）」

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

地域探究プログラムは、宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付ける。また、地域での実践活動においては、多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた取組を行うことで、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する高校生の育成を目的としている。そして、実践活動を行った高校生が学びや成果を発表する場を設ける。この取組によって、体験活動を積極的に行った高校生を学校や社会がしっかりと評価するよう、その機運を高めることに資することしている。

2. 事業の概要

（1）後援　岡山県教育委員会

（2）期日　令和６年１２月２２日（日）

（3）参加者

①　募集対象

地域探究プログラムオリエンテーション合宿を修了し、実践活動を行い報告書を提出した中国ブロックの高校生

②　参加者　５人

個人部門

岡山県立瀬戸南高等学校　１人

グループ部門

広島県立大柿高等学校　２人

山口県立山口高等学校　２人

（3）会場　岡山シティホテル桑田町

（4）評価委員　加藤　智　氏（愛知淑徳大学　准教授）

熊谷　愼之輔　氏（岡山大学　学術研究院　教育学域　教授）

片山　貞実　氏（国立吉備青少年自然の家　所長）

（5）企画・運営のポイント

①　遠方からの参加者の負担を軽減するため、交通の利便性を考えて駅周辺のホテルで開催した。

②　各施設からの参加者の視点からより良い企画・運営をするために、中国地方の施設職員によるオンライン打合せを行った。また、当日についても他施設に職員の派遣を依頼し、運営を行った。

③　昨年度の引き継ぎ事項より、発表者のプレゼンテーションの動作確認がスムーズにいくように会場と事前対策を入念に行った。

３. 活動の内容等

（1）日程

令和６年１２月２２日（日）日帰り　会場：岡山シティホテル桑田（岡山市）

時刻	内容
12：30～13：00	参加者受付（～12：50）、発表者プレゼンテーション動作確認
13：00～13：10	開会式
13：10～13：25	オリエンテーション
13：30～14：30	プレゼンテーション（個人部門⇒グループ部門の順）
14：15～14：45	休憩 評価委員審査
14：45～15：15	審査結果発表・講評
15：15～15：25	表彰式
15：25～15：35	閉会式

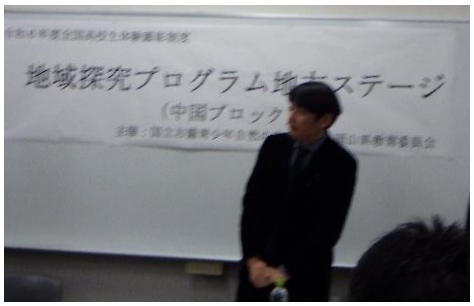
（2）活動の状況

【開会式】

【プレゼンテーション（個人部門）】

【プレゼンテーション（グループ部門①）】

【プレゼンテーション（グループ部門②）】



【講評】

【表彰式①】

【表彰式②】

【表彰式③】

【閉会式】

4. 成果・課題

（1）成果

① 遠方からの参加者にとって移動の負担が少ないことはとても良いことであるという声を参加者から聞くことができた。

② 中国ブロックの施設職員によるオンライン打合せを行うことで、当日の動きを細かく共有することができた。また、些細なことでも情報共有をすることで、より見通しを持つことができ、当日の運営を円滑に行うことができた。例年の地方ステージでは、担当施設のみで企画・運営を行っていたが、次年度以降の地方ステージ担当施設の経験としても連携することは有意義であると思われる。

③ 発表者のプレゼンテーションの動作確認がスムーズにいくように事前対策を入念に行った。会場のホテルと連絡を取り、プロジェクターがタブレット端末につながるかを確認したり、事前にデータを送付の依頼をしたりすることで参加者が安心して本番に臨むことができた。

（2）今後の課題

① 国立吉備青少年自然の家が一時休館期間中であるため、例年のように他県からの参加者が前泊をすることができなかった。そのため、山口県や広島県からの参加者が当日に岡山県に来ることになった。公共交通機関を利用できる時間が限られており、必要最低限の開催スケジュールとなった。来年度は国立三瓶青少年交流の家が担当のため島根県での実施予定である。来年も国立青少年教育振興機構全体で休館期間が設けられることも考えられるため、その施設の状況や立地に合

わせて柔軟に対応をした開催が必要である。

② 閉会後にプレゼンテーションについて質問をしたいということで参加者同士の交流が見られた。しかし①の理由より、必要最低限のスケジュールになってしまったことで、参加者同士の交流の時間を十分に取ることができなかった。地方ステージは発表の場でもあるとともに、参加者同士の交流や情報交換の場でもあるので、そのような時間も確保できることが望ましい。

担当：企画指導専門職　八木　雄治

令和６年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
国立青少年教育振興機構とモンベルとの連携事業
SEA TO SUMMIT for Children in KIBI

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

人力で海から里、そして山へと進む中で、自然の循環を体感し、かけがえのない自然 について考えるとともに、仲間と困難に立ち向かい、声を掛け合いながら克服する喜びを味わう。

２．事業の概要

（１）期日

令和６年９月２１日（土）～９月２３日（月）２泊３日

（２）参加者

① 募集対象・人数

全日程に参加できる小学校５年生～中学校３年生　２０人程度

② 参加人数

２０人

（３）講師等

西川　竜馬　氏　（岡山県渋川青年の家　所長）

神原　直也　氏　（株式会社サンキョウエンビックス　環境調査部門リーダー）

（４）企画・運営のポイント

① 参加者が達成感を味わう体力的な負荷のある企画にするため、海のステージではカヤック、里のステージではマウンテンバイク、山のステージではではハイキングを設定した。さらに、各ステージで楽しむことができるように、所員の特技を生かしたチェックポイントを設けるなどの工夫をする。

② 開催参加者が活動を安全に楽しみながら行うことができるように、猛暑を避ける意図で９月下旬に実施した。

③ 各ステージでの体験と環境学習と関連をもせることで、それぞれの活動を単発で行うのではなく、体験したことや学んだことが次の活動で生きるようにする。

④ 環境学習に株式会社サンキョウエンビックスより講師を招き、専門性の高い講義演習を行う。

⑤ キャンプがもたらす影響を調査するために中国短期大学の土田豊氏に協力を依頼した。

⑥ ＳＮＳで随時活動を保護者やフォロワーに伝える。

⑦ 実行委員会を設立し、学校教育、社会教育、研究者、環境の専門家、企業と様々な視点からのアドバイスをもとに企画・運営をする。

３．活動の内容等

（１）日程

日数	日付	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目	9/21（土）				受付	海のステージ（カヤック）			昼食	オリエンテーション	環境学習		入室	夕食 休憩	振り返り	入浴	就寝準備	就寝
2日目	9/22（日）	就寝	起床 洗面 清掃	朝食	点検 退所準備	移動	入室	昼食	里のステージ（マウンテンバイク）		環境学習		諸連絡	夕べのつどい 夕食	振り返り	入浴	就寝準備	就寝
3日目	9/23（月）	就寝	起床 洗面 清掃	朝のつどい 朝食	点検	山のステージ（ハイキング）		昼食	環境学習	振り返り まとめ	閉会式							

（２）活動の状況

【海のステージ（カヤック）】

【環境学習①】

【里のステージ（マウンテンバイク）】

【環境学習②】

【山のステージ（ハイキング）】

【ゴール】

【環境学習③】

【発表】

４．成果・課題

（１）満足度

満足　９２％、やや満足　８％

（２）参加者の声

①　水が海、里、山とすべてにつながっていることがわかった。自然の中で活動すると、より深くそのことを感じられた。

②　住める生き物が水のきれいさによって違っていることがわかった。また、人間の行いによって自然界の生き物の生活が脅かされているということもわかった。
　これからはＳＤＧｓを頭の隅において生活していきたい。

③　一つ一つのステージを乗り越えることで、仲間の大切さやあきらめない心を学ぶことができた。そして、どのステージも景色が素敵で楽しかった。

④　普段の生活では感じることができない空気、においを体で感じることができた。

（３）成果

①　本事業は活動の準備等、見えないところでの職員の動きが多く必要である。全所体制で行うことで、しっかりと準備をすることができ、参加者の活動をスムーズに行うことができた。

　また、山のステージでは、その日に出勤している職員を全員チェックポイントに配置した。参加者へは、チェックポイントで全職員からサインを集めるというミッションを与えた。参加者にとってたくさんの職員と触れ合うことは楽しみであったことが参加者の反応から分かった。

　森林インストラクターの資格をもつ職員のチェックポイントでは、実験を行った。落ち葉や木の枝が土の中にあることが保水性につながること分かり、緑のダムについて理解できるようにした。その後のハイキングで、山を見る際の視点を持つことができた。

　また、レクリエーションが得意な所員のチェックポイントでは、グループの絆が強まる時間を過ごした。参加者を楽しむことができるように各職員が工夫をし、全所体制で教育事業がより良くなるようにした。

【山をモデルにした実験】

【レクリエーション】

② 熱中症の心配はなく、適温のもと各ステージの活動を行うことができた。風を感じながら景色を楽しんで活動に取り組み、心地良く自然を楽しむ姿が見られた。

活動に適した気候で実施することは、参加者が安全に過ごすことができただけでなく、活動の質の向上にもつながった。

③ その後の環境学習で水質検査を行うことで、海のステージではカヤックを楽しむとともに、渋川海岸の水質を調べるために海水を採取するという目的意識をもたせ、つながりのある活動となった。

④ 環境学習では、専門的な知識をもつ講師と連携することで普段経験できない実験を行うことができた。日常生活と関連付けることで興味を持つことができただけでなく、終わってからも「水を大切にしたい。」という感想が多く聞かれた。

⑤ 各ステージを終え、環境学習の学びの後に振り返りの時間を設けた。アウトプットをする手段として模造紙に学びをまとめることを中心としたが、時間を多く取ることができないことが計画段階から予想された。限られた時間で全員が役割を果たすために、付箋や家庭用プリンターを活用することで活発なアウトプットが行うことができた。

【振り返り時間に作成された成果物】

また、山のステージではグループごとにコースをめぐるようにした。グループで地図を囲みながら山中を歩くことで、声を掛け合い周りの自然を意識しながらゴールを目指すことができた。

⑥ 受付時にＳＮＳの二次元コードを配布し、保護者が随時活動を知ることができるようにした。ＳＮＳ担当の職員が魅力的な内容を考え、山のステージのゴールではライブ配信をすることで、生き生きと活動をする姿を伝えることができ、保護者にとっても安心感につながった。参加者や協力団体を通じて約３０人の Instagram のフォロワーを増やすことができた。

（４）今後の課題

「令和７年度 SEA TO SUMMIT for Children in KIBI」には、今年の参加者も参加することも考えられる。そのため、プログラムが前年度踏襲になるのではなく、より魅力的な内容になるように連携する講師や実行委員とブラッシュアップした内容になるように企画したい。

担当：企画指導専門職　八木　雄治

令和６年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
「早寝早起き朝ごはんキャラバン隊」

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

子供たちが健やかに成長していくためには、調和のとれた食事、十分な睡眠が大切であるという考えから始められた「早寝早起き朝ごはん」運動について、県内の小学校等と連携し、継続的な啓発・普及活動を展開することで、基本的な生活習慣の確立を図る。

２．事業の概要

（１）期日

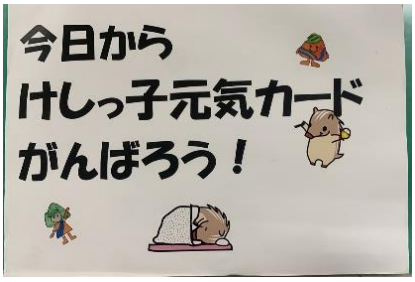
１月１０日　真庭市立北房小学校
１月１５日　岡山市立可知小学校
１月１６日　岡山市立芥子山小学校
１月１７日　岡山市立平津小学校
２月１０日　真庭市立美川小学校

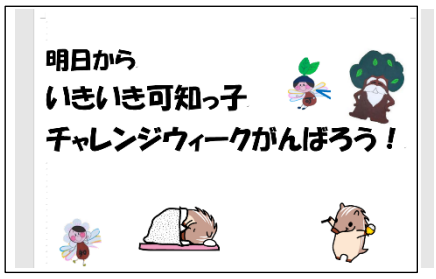
（２）参加者

延べ１，７８９人

（３）企画・運営のポイント

①　子供たちの生活リズムを整えるために長期休み明けや週明けに行う。
②　各学校の担当者と連携を取り合い、学校行事や保健指導と関連付けた挨拶運動にするなどの工夫をする。
③　学校の取組との連携が多いことから、目的を記したボードを持つことで子供たちが意識して早寝早起き朝ごはんに取り組むことができることをねらう。





【目的を記したボード】

３．活動の内容等

（１）日程

①１月１０日　真庭市立北房小学校

7:15	打合せ　動線確認　更衣
7:30	校門あいさつ運動開始
8:00	校門あいさつ運動終了

②１月１５日　岡山市立可知小学校

7:40	打合せ　動線確認　更衣
8:00	校門あいさつ運動開始
8:25	校門あいさつ運動終了
8:30	テレビ放送にて〇×クイズ
8:40	終了

③１月１６日　岡山市立芥子山小学校

7:40	打合せ　動線確認　更衣
8:00	校門あいさつ運動開始
8:25	校門あいさつ運動終了
8:30	テレビ放送にて〇×クイズ
8:40	終了

④１月１７日　岡山市立平津小学校

7:40	打合せ　動線確認　更衣
8:00	校門あいさつ運動開始
8:25	校門あいさつ運動終了
8:30	テレビ放送にて〇×クイズ
8:40	終了

⑤２月１０日　真庭市立美川小学校

7:15	打合せ　動線確認　更衣
7:30	校門あいさつ運動開始
8:00	校門あいさつ運動終了

（２）活動の状況

【あいさつ運動（北房小学校）】

【あいさつ運動（北房小学校）】

【あいさつ運動（可知小学校）】

【○×クイズ（可知小学校）】

【あいさつ運動（芥子山小学校）】

【○×クイズ（芥子山学校）】

【あいさつ運動（平津小学校）】

【あいさつ運動（平津小学校）】

【あいさつ運動（美川小学校）】

【あいさつ運動（美川小学校）】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：１００％

（２）参加者の声

① 子供たちはとても喜んで、いつも以上に大きな声で笑顔であいさつをできていました。雪が降っており、足元が悪く非常に寒い日でしたが、学校全体が温かい雰囲気に包まれました。

② いきいき可知っ子チャレンジウィークに合わせて来て頂けたので、タイミング良く取り組めそうです。

③ 楽しく頑張ろうという気持ちになるので、これからもぜひお願いしたいです。

④ ○×クイズの時に、「心の中で答えてね。」と言ってくださったので、感染症対策と集中して見るにはとても良かったです。時期によっては「小さい声で答えてね。」と答えを言うのも良いかと思いました。

（３）成果

① 早寝早起きキャラバン隊によるあいさつ運動が単発で行われるのではなく、学校の行事と関連付けられることでより有効な支援となった。

② こまめに連絡を取り合うことで本事業の意図が相手にも伝わり、事前に養護教諭が早寝早起きキャラバン隊の活動を紹介したり児童への声掛けが具体的になったりして指導が効果的になった。

③ 視覚的なボードを使用することで、キャラバン隊と子供たちの間で早寝早起き朝ごはんに関する会話が膨らみ、意図する声掛けを多くすることができた。

（４）今後の課題

① 新規の学校の先生からは「こんなにいい活動とは知らなかった。」「保健委員会の活動としてみたい。」という声をいただいた。企画に自信をもつとともに、広報について検討の必要性を感じた。「子供たちのために呼んでみたい！」「こんな活動をしてみたい！」と先生方に興味をもってもらえるように、魅力が伝わるチラシ等を作成する必要がある。そうすることで、内容がより充実したものとなり、子供たちの規則正しい生活習慣につながると考えられる。

② 今年度は、実施の地域に偏りがあった。広範囲の地域で早寝早起き朝ごはんキャラバン隊の活動を知ってもらうためには、各市町村の教育委員会を訪問するなど積極的な広報を行う必要がある。

担当：企画指導専門職　八木　雄治

令和６年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
自己肯定感アップキャンプ

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

自然の中でのグループ活動を通して異学年の仲間と主体的に関わり、４年生は３年時の経験を活かしながらリーダーシップを発揮したり、３年生は自然の中での体験活動を通して自信をつけたりすることで、それぞれの自己肯定感を高める。

２．事業の概要

（１）期日

令和６年１０月２４日（木）～１０月２５日（金）一泊二日

（２）参加者

吉備中央町立津賀小学校・円城小学校・御北小学校（３校連合）
小学校３年生２３人　４年生１９人　計４２人

（３）企画・運営のポイント

①　自己肯定感は早期に手立てを打つこと、また２学年に渡って実施することでより効果が得られることを想定して、小学校３年生と４年生に設定した。
②　利用団体の実態に応じて過去２年間のプログラムから変更を加えた。
③　今後、研修支援のパッケージ化のために、現在ある活動の中で遊びリンピックやスコアＯＬなど自己肯定感が上がりそうな活動を取り入れた。
④　自己肯定感の変化を捉えるために、事前・事後でのアンケート調査を行う。また、活動中も自分や友達の良さを振り返る機会を多く設け、キラリシートにまとめて、視覚的に分かりやすくする。

３．活動の内容等

（１）日程

10 月 24 日（木）		10 月 25 日（金）	
8:45	各小学校を出発	6:30	起床
9:45	入所式	6:45	そうじ
10:00	吉備アドベンチャープログラム（KAP）	7:15	朝のつどい
12:00	昼食（レストラン）	7:30	朝食（レストラン）
13:00	スコアＯＬ（荒天：館内ＯＬ・ＫＡＰ）	9:00	野外炊事
16:00	遊びリンピック	9:30	（自主点検表提出）
17:15	夕べのつどい	13:00	振り返り
17:30	夕食（レストラン）	14:00	退所式
18:30	キャンプファイヤー	15:00	各小学校に到着
20:30	入浴		
21:30	就寝		

（２）活動の状況

【KAP】

【スコアＯＬ】

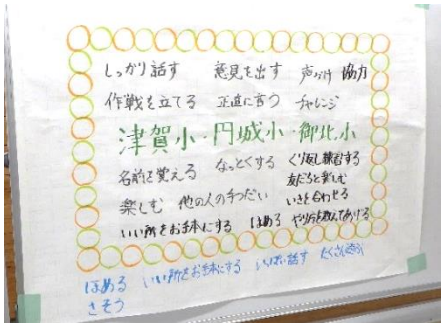
【遊びリンピック①】

【遊びリンピック②】

【キャンプファイヤー】

【野外炊事】

【振り返り】



【振り返り（キラリシート）】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：１００％

（２）参加者の声

①児童

ア）みんなから自分の良いところを聞いて自分の良いところはたくさんあったことに気付いた。（３年生）

イ）４年生が引っ張ってくれてかっこよかったので、私もそんな４年生になりたい。（３年生）

ウ）初めてリーダーとなって不安だったけど、みんながほめてくれたので自信になった。（４年生）

エ）３年生の時に４年生に引っ張ってもらったから、今年は４年生として３年生を引っ張ることができたから、３年生の時の経験が活かせた。（４年生）

②教員

ア）２日間、自己肯定感アップを目的としたプログラムを行うことで子供たちも充実した活動を行うことができた。

イ）子供主体で進めていくことで、子供の力がかなりついたような気がする。

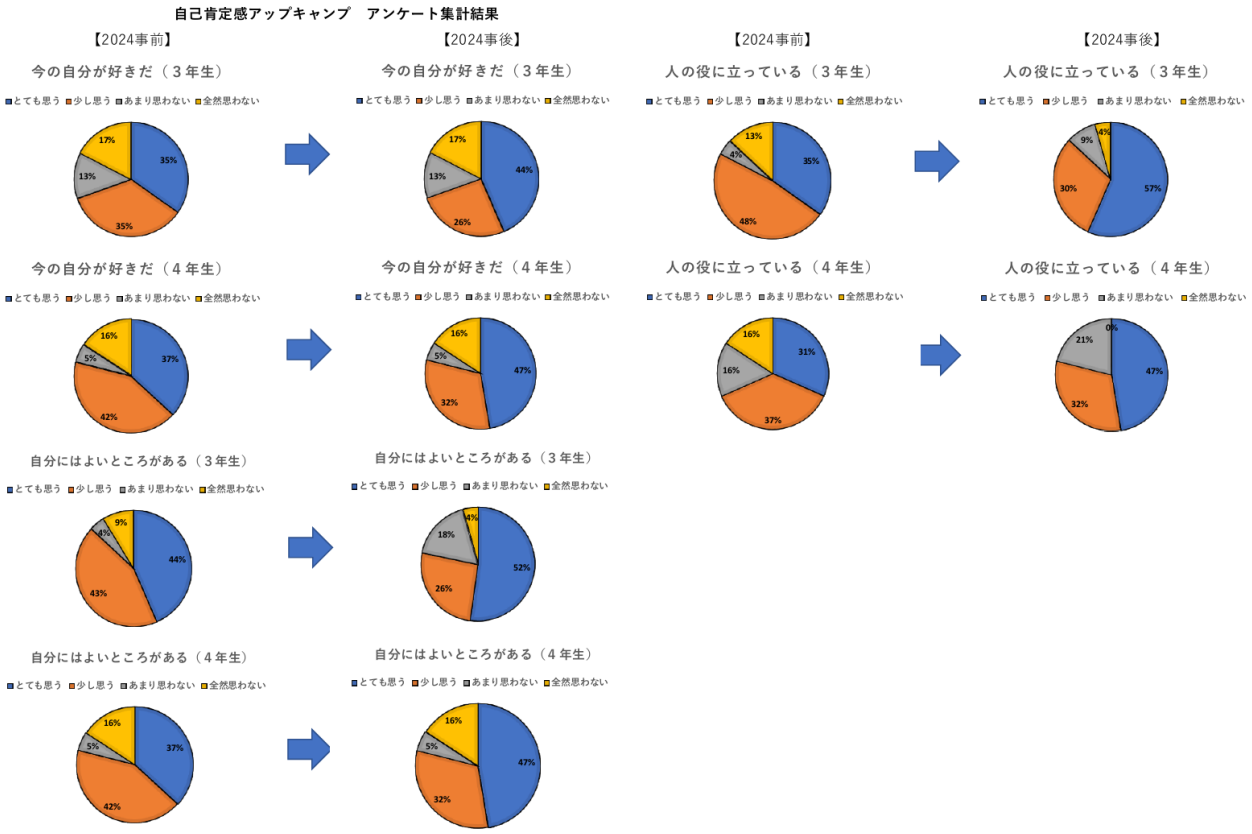
ウ）学校ではなかなか見えにくい子供たちの良さを最大限に引き出していただいたように思う。

エ）振り返りの中であった友達と協力することやてきぱきと行動することなどを学校生活でも活かしていけるように指導していきたい。

（３）成果

	事前	事後		事前	事後		事前	事後
3年	2.8	2.9		3.2	3.2		3.1	3.5
4年	3	3.1		2.8	3.1		2.8	3.2
経年	3	3.1		3.1	3.1		2.9	3.2

※経年…４年生の３年時（昨年度）の事前と４年時（今年度）の事後を比較したもの。



① 全体を通して、自己肯定感の伸びが見られた。特に、「人の役に立っている」項目について事前と事後で大きな伸びが見られた。

② ４年生については、昨年度の事前と比べてもあまり変化は見られなかったが、事前アンケートを見ると思春期に入る時期で自己肯定感が下がってきていたが、事業を通して自己肯定感の高まりが見られた。

③ 事業として３年目となり、学校の教員も流れを理解して、スムーズに行うことができた。

④ 来年度、自己肯定感アップキャンプのノウハウを生かした宿泊学習を計画されたので、成果が見られた。

（４）今後の課題

① オリエンテーリングの地図が難しかったので、写真を挿れるなど見やすくなるよう検討する。

② ＫＡＰをよりよくするために、引率者への対応やアクティビティの組み立て方など所内で研修を重ねていく。

担当：企画指導専門職　　藤本　昌克

令和６年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
チアフルデー　～吉備の森感謝でぇ～

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

親子で自然体験活動を楽しむことで、親子のふれあいの大切さを感じたり、他の家族との交流を深めたりすることをねらいとする。

子供の健やかな成長に体験がいかに大切かを広く発信し、社会全体で体験活動を推進する機運を高めることを目的とする。

２．事業の概要

（１）期日

前夜祭：令和６年１１月１６日（土）～１１月１７日（日）１泊２日
本　祭：令和６年１１月１７日（日）日帰り

（２）参加者

①　募集対象・人数
前夜祭一般（幼児から大人まで）
本祭５０家族（前夜祭家族含む）（２５０人）

②　参加人数
前夜祭１７家族（５１人）　　本祭３１家族（１０４人）

（３）講師等

都築　照代　氏（絵本専門士）
水野　恵子　氏（絵本専門士）
畑上　昌子　氏（絵本専門士）
日本防災士機構岡山県支部　防災士
国立吉備青少年自然の家　外部研修指導員

（４）企画・運営のポイント

①　前夜祭からの参加者には、活動時間に余裕を持たせ、家族同士が交流する時間を取りやすくした。

②　災害教育の観点から日本防災士機構岡山県支部にブースを出展していただき、非常食を作って試食してもらい非常食について新たな認識をしてもらえるようにした。

③　不審者対応として参加者であることが一目で分かるようにリストバンドを配付した。

④　岡山県内の様々な団体との連携を図った。

３．活動の内容等

（１）日程

11 月 16 日（土）前夜祭	
16:00	受付（玄関）
16:30	開会行事
16:45	アイスブレイク
17:15	夕べのつどい
17:30	夕食（レストラン）
18:30	休憩
19:00	絵本読み聞かせ（ふれあいホール）
20:00	入浴（生活関連棟）
22:00	就寝（宿泊室）
11 月 17 日（日）チアフルデー	
6:30	起床・洗面・清掃・荷物移動（宿泊室）
7:15	朝のつどい
7:30	朝食（レストラン）
8:30	ここまでが前夜祭
9:00	受付
9:30	チアフルデー ① カッター活動（鳴滝湖） ② 樹木ビンゴ（所内） ③ 授乳室＋ちびっ子ルーム（学習室１） ④ フィールドアスレチック（ウーリーのぼうけんひろば） ⑤ おもしろ自転車（つどいの広場） ⑥ ポニー（馬）乗馬体験（下の広場） ⑦ キャンドルづくり（学習室２） ⑧ 親子で遊ぼう（学習室３） ⑨ 非常食屋台村（チャレンジルーム） ⑩ レザークラフトを作ろう（多目的ホール） ⑪ カプラ＆ペタンク（プレイホール） ⑫ 絵本広場（グリーンルーム・ふれあいホール） ⑬ 遊びリンピック（プレイホール） ⑭ そとチャレラリーに挑戦（受付：玄関） ⑮ キッチンカー（中広場）
15:00	終了・解散

（２）活動の状況

【前夜祭・絵本読み聞かせ（工作）】

【乗馬体験】

【レザークラフト】

【キャンドルづくり】

【非常食屋台村】

【樹木ビンゴ】

【おもしろ自転車】

【カッター活動】

４．成果・課題

（１）満足度

前夜祭：満足６０％　やや満足：４０％

本祭：　満足８５％　やや満足：１５％

（２）参加者の声

① 前夜祭の絵本の読み聞かせは、創作活動もあり楽しかった。

② 自然に親しむ様々な活動があり良かった。

③ カッター活動は疲れたが、みんなで協力することの大切さが感じられた。

（３）成果

① 前夜祭は、絵本専門士による読み聞かせの後、本のストーリーに沿ったワークショップ「ぼくのまちをつくろう」を行い、参加者が全員で創造の町を作り上げることができた。

② 他の社会教育団体等にも出展ブースを出してもらい連携を図ることができた。

③ 災害教育の観点から日本防災士機構岡山県支部に出展ブースを出してもらい様々な非常食を参加者が選び、実際に作ってみて試食をすることで、非常食のイメージを変えることができた。

④ 近隣の乗馬倶楽部と連携し施設内にポニー（馬）乗馬体験ができるようにしたことで、普段見ることがない大きな動物と触れ合う機会の提供ができた。

（４）今後の課題

① 秋は県内でイベントが多いので、市街にある当施設の教育事業に来てもらうことがなかなか難しい。また、参加してくれた家族もすぐに利用しようと思っても、一時休館中なので受け入れることができないので開催時期を年度末にすることも検討したい。

② カッター体験活動時には参加者がブースから多く抜けるので、午前参加者、午後からの参加者を事前に把握できる申込み方法も検討することで参加者のバランスの取れた運営を行うことができる。

③ レストランとの食数の変更やアレルギー対応等労力を要するので、店長と相談しやり方を工夫することを考えたい。

担当：主任企画指導専門職　河本　潤

令和６年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
わくわくキャンプ@吉備

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

経済的な事情などで、子供たちに体験をする機会が与えられていないひとり親家庭を対象に、吉備の自然を生かした活動や体験活動を行い、ひとり親家庭での体験活動を支える。

２．事業の概要

（１）期日

令和６年１２月１日（日）日帰り

（２）参加者

①　募集対象・人数

岡山県内の幼児（未就学の４～６歳児）とその家族　８家族３０人程度

②　参加人数

１２家族（３１人）

（３）連携機関

ＮＰＯ法人チャリティーサンタ（岡山市）
岡山乗馬倶楽部

（４）　講師

黒田　幸保　氏（日本キッズコーチング協会）

（５）企画・運営のポイント

①　地域にある他施設との連携を図り日帰りながらプログラムの充実を図った。

②　参加の対象を幼児に限定することで、幼児に特化した活動を展開するようにした。

③　参加費、食費無料、無料バス送迎を行い、保護者の負担軽減に努めた。

④　一般募集はせずに、ひとり親家庭や貧困家庭の支援に取り組んでいる行政やＮＰＯ団体と連携し、対象の家庭に直接案内が届くように広報協力を依頼した。

⑤　保護者は日々の生活の悩みを相談できるように親子別々のプログラムを設定した。

３．活動の内容等

（１）日程

令和６年１２月１日（日）日帰り

１２月１日（日）	
8:45	受付
9:00	開会式・オリエンテーション
9:30	ポニーふれあい体験・乗馬体験
12:30	昼食（レストラン）
13:30	子ども （湖岸ファイヤー場で焚火体験・焼芋体験） 保護者 （日本キッズコーチング協会講師による保護者交流会）
15:15	閉会式

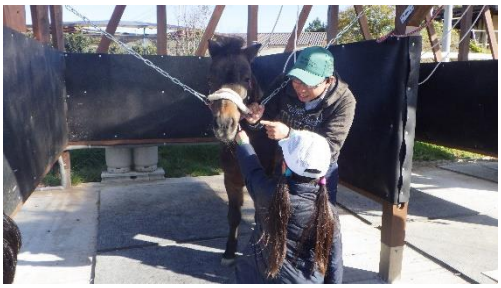
（２）活動の状況

【乗馬の前のオリエンテーション】

【乗馬体験①】

【乗馬体験②】

【乗馬体験③】



【ふれあい体験①餌やり】

【ふれあい体験②ブラッシング】

【元競走馬の見学】

【焚火と焼芋体験】

【湖岸ファイヤー場での遊び】

【保護者交流会】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：８０％　　やや満足：２０％

（２）参加者の声

① 子どもが初めての場所、体験に不安を感じたくさんの体験をあきらめていましたが少しずつチャレンジでできるようになりすべての体験ができていてとても嬉しかったです。

② 幼児向けのプログラムでよかったです。午後から親と子どもで別行動することはとても新鮮な気持ちでした。

③ 馬と触れ合うことができたのは貴重な体験でした。

（３）成果

① 馬という大きな動物との触れ合いや乗馬体験は参加された親子にも貴重な体験となった。

② 岡山乗馬倶楽部と初めて連携をして事業を実施することができ、今後も乗馬体験等を踏まえた連携が行えることが分かった。

③ 町中では難しい焚火にあたることや焼芋を焼いて食べる事ができたのはよい体験活動だった。

④ 日本キッズコーチング協会講師の交流会は同じ悩みや課題を抱えている保護者にとって貴重な時間となった。

⑤ 対象を幼児に限定することで、似たような年齢層が集まり、お互いに協力したり、一緒に遊んだりする姿が見られた。

⑥ プログラムにゆとりがあったことで、子ども同士、保護者同士が交流できる時間が取れ、緩やかなネットワーク作りができた。

（４）今後の課題

① 応募数が募集人数を超えた。需要が供給を上回っているので、多くの希望者にどのような形で体験を提供できるか検討する必要がある。

② 子どもたちだけで活動するときに、職員の目が行き届かないところまで走って行ってしまうので、施設ボランティアや学生サポーターも含めできるだけ多くの目を確保したがマンツーマンくらいの体制をとらないと危険を感じた。

担当：主任企画指導専門職　河本　潤

令和６年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
ミクロネシア諸島自然体験交流事業

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的とする。

２．事業の概要

（１）後援

吉備中央町教育委員会

（２）期日

事前学習会：令和６年６月１６日（日）
受入：令和６年６月２７日（木）～７月１日（月）４泊５日

（３）参加者

①　募集人数
ホストファミリー２１家族

②　参加人数
ミクロネシア諸島参加者　３５人
ホストファミリー参加者　７７人（２２家族）

（４）会場

事前学習会：ピュアリティまきび
学校訪問：吉備中央町立吉備高原小学校

（５）講師等

事前学習会（英会話教室）　池田　好美　氏（YoshimiEnglishSchool）

（６）企画・運営のポイント

①　ホストファミリーを募集するのに、吉備中央町内の小学校だけでなく岡山国際交流センターや岡山市の小学校など広く広報する。

②　事前学習会を設けることで、ホストファミリーに対して事業の概要を説明したり英会話教室を行ったりして安心してホームステイに取り組めるようにする。

③　ミクロネシア諸島参加者にとってよりよい体験にするために、学校訪問での内容や所内での活動を工夫する。

④　参加者への負担も考慮して、ゆとりのある時間設定にする。

３．活動の内容等

（１）日程

日数	日付	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
１日目	６/２７（木）						11:30 岡山空港着	移動	昼食	岡山城見学		移動	入所式 宿泊準備	夕食	入浴		休憩	就寝
２日目	６/２８（金）	就寝	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食	準備	学校訪問		昼食	晴天：カッター活動 荒天：焼き板		休憩	タベのつどい	夕食	ホストファミリー交流タイム	入浴	就寝
３日目	６/２９（土）	就寝	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食	準備	ホームステイ										
４日目	６/３０（日）	ホームステイ							レセプション（交流会）		振り返り	自由時間		タベのつどい	夕食	片付け 荷物整理	入浴	就寝
５日目	７/１（月）	就寝	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食	準備	岡山空港送迎	岡山空港 自由時間 搭乗手続き	12:25 岡山空港発								

（２）活動の状況

【岡山城見学】

【学校訪問（外国語授業）】

【学校訪問（習字体験）】

【焼き板】

【ホストファミリー交流タイム】

【レセプション（交流会）】

【お別れタイム】

【お見送り】

４．成果・課題

（１）満足度（日本人参加者）

満足：６８％　やや満足：２７％　やや不満：５％

（２）参加者の声（日本人参加者）

①　翻訳アプリに頼ってしまったので、英語をしっかり勉強して交流できるようになりたい。

②　実際話してみると自分はあまり英語を話せないことに気付いた。だからもっと英語を話す機会を増やしてペラペラの英語を話せるようになりたい。

③　ミクロネシア諸島の人はとても明るく優しく、いつでも笑っているかのように元気だったので、自分もミクロネシア諸島に行ってみたいと思った。

④　もっとコミュニケーションをとりたかったけど、ミクロネシア諸島の参加者がずっとスマホをいじっていて残念だった。

（３）成果

①　ホストファミリーを募集するのに、吉備中央町内の小学校だけでなく岡山国際交流センターや岡山市の小学校など広く広報したことで、２２家族の応募があった。

②　ホストファミリーに対して事業の概要を説明したり英会話教室を行ったり事前学習会を設けたことで、安心してホームステイに取り組める手立てとなった。

③　学校訪問では、外国語の授業と習字体験を計画して、ミクロネシア諸島の参加者と日本の子供が交流する姿が多く見られた。また、所内での活動は荒天のためカッター活動は中止となったが、活動プログラムとしてよく活用される焼き板を体験したことで、ミクロネシア諸島の参加者にとっていい思い出となった。

④　ゆとりのある時間設定は、ミクロネシア諸島の参加者の実態に合っていた。

（４）今後の課題

①　事前学習会でミクロネシア諸島の歴史的背景や生活習慣をより詳しく伝えたり、ホストファミリー同士でどんな活動をするか話し合ったりする機会を設けることで、ホームステイの内容がより充実すると考える。

②　今年度は振り返りの時間にホストファミリーの方にアンケートを書いてもらったりミクロネシア諸島の参加者へビデオメッセージを撮ったりしたが、ホームステイでどんな活動をしたかを話し合う機会を設けることで、ホストファミリーの交流になったり、次年度の活動へつながったりするきっかけになるのではないかと考える。

③　ミクロネシア諸島の参加者がスマホを使用する時間が長かったので、ホストファミリーと交流する際には制限をかける必要があると考える。

担当：企画指導専門職　　藤本　昌克

令和６年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、施設ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

２．事業の概要

（１）期日

令和６年５月２５日（土）～５月２６日（日）１泊２日

（２）参加者

①募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人　５０人

②参加人数

１６人　（高校生４人、大学生１２人）

（３）講師等

講義「青少年教育における体験活動」
講師：室　貴由輝　氏（岡山県教育庁　学校教育推進監
一般社団法人　やかげ小中高こども連合　共同代表）

講義・演習「自然体験活動の安全管理」
講師：消防署職員（岡山市西消防署吉備中央町出張所）

説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」
報告：法人ボランティア２人（国立吉備青少年自然の家）

講義・演習「ボランティア活動の技術」
講師：河本　潤（国立吉備青少年自然の家　主任企画指導専門職）

講義「ボランティア活動の意義」
講師：藤本　昌克（国立吉備青少年自然の家　企画指導専門職）

講義「青少年教育施設の現状と運営」
講師：妹尾　剛（国立吉備青少年自然の家　所長）

説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」
説明：八木　雄治（国立吉備青少年自然の家　企画指導専門職）

（４）企画・運営のポイント

① 開催については、「興味を持った高校生が多くいたがテスト期間中のために参加できなかった」という昨年度の反省を生かし、１週間遅く開催時期を設定した。

② 直接広報を行う際にはより具体的なイメージを持ちやすくするために、職員だけでなく法人ボランティアの大学生と共に説明を行った。

③ 講義内容をアクティブラーニングを取り入れたものにすることで、参加者がより主体的に学ぶことができるようにした。

３．活動の内容等

（１）日程

5 月 25 日（土）		5 月 26 日（日）	
9:15	受付	6:30	起床・洗面・清掃
9:45	開講式	7:15	朝のつどい
10:00	講義	7:30	朝食
	「青少年教育における体験活動」	9:00	講義・演習
11:30	アイスブレイク①		「ボランティア活動の技術」
12:00	昼食	13:00	講義
13:00	アイスブレイク②		「ボランティア活動の意義」
14:00	講義・演習	14:45	講義
	「自然体験活動の安全管理」		「青少年教育施設の現状と運営」
17:15	夕べのつどい	15:45	説明
17:30	夕食		「青少年教育施設におけるボランティア活動」
18:30	説明	16:45	閉講式
	「青少年教育施設におけるボランティア活動」		
19:30	入浴・休憩		
20:30	情報交換会		
22:00	就寝		

（２）活動の状況

【講義「青少年教育における体験活動」】

【アイスブレイク】

【講義・演習「自然体験活動の安全管理」】

【説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」】

【講義・演習「ボランティア活動の技術」】

【講義「ボランティア活動の意義」】

【講義「青少年教育施設の現状と運営」】

【説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：：８１％　やや満足：１９％

（２）参加者の声

① みんなで協力して一つのことをやるのがとても楽しかったし、連携をとるためのコミュニケーションの大切さを感じた。

② 何かを実践する際に重要なことは「体験学習サイクル」に基づいて進めていくと設定した目標に手が届くようになると思った。

③ 短い時間でもみんなと仲良くでき、かけがえのないボランティア仲間ができた。

④ ボランティアとして、今後は青少年教育にかかわっていきたいと思った。

（３）成果

① 吉備ボランティア養成研修と高校のテスト期間をずらすことで、昨年度よりも多くの高校生が参加することができた。

② 直接広報の際、職員だけでなく先輩ボランティアの体験を聞いて興味をもち、申込みをした参加者がいた。

③ 座学、ラベルワークを取り入れたグループ学習や体験型の演習と様々な形式の講義にしたことで、参加者にとっての学びが深まった。さらに、講義の中で活動を共にすることで人間関係が良好になり、一体感が生まれて一層意欲的に学ぶことができるという好循環が見られた。

（４）今後の課題

① 直接広報を行っていた大学の一つで、講義の中で広報を行っていたが、その講義の時期が変わっていた。例年、多くの申込みがあった大学であったので、代わりの講義で広報をさせてもらえないか検討したい。

② 多くの参加者が新規で法人ボランティアに登録し、教育事業に参加したいと意欲的になっている。しかし、今年度の教育事業の減少により法人ボランティアが活躍する機会が保証されていないことに対して対策をする必要がある。

担当：企画指導専門職　八木　雄治

公式 SNS で最新の情報を発信しています。

ぜひ登録をお願いします！

KIBI_NIYE

公式 Instagram

YouTube

公式 YouTube

LINE

公式 LINE

JR岡山駅から　バス …… 約70分 (33km)

JR備中高梁駅から　バス …… 約50分 (21km)

岡山自動車道　賀陽ICから …… 約10分 (9km)

山陽自動車道　岡山ICから …… 約30分 (27km)

国立吉備青少年自然の家へは、「国少口 国立吉備青少年自然の家入口」交差点を右折してください。※写真は、岡山方面から見た図。

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立 吉備青少年自然の家

〒716-1241　岡山県加賀郡吉備中央町吉川 4393-82

電話 (0866) 56-7232　ファックス (0866) 56-7235

E メール：kibi-senmon@niye.go.jp

吉備青少年 検索